

## 2017年CIVL速報

by 岡、北野

日程：2017年2月2, 3日 各部会  
4, 5日 総会

場所：HOTEL HEFFTERHOF、ザルツブルグ、オーストリア

参加国：アルバニア（マケドニアに委任）、アルジェリア（フランスに委任）、オーストリア、ベルギー、ボスニア・ヘルツェゴビナ（セルビアに委任）、ブルガリア、カナダ（アメリカ合衆国に委任）、中華人民共和国、台湾、コロンビア、チェコ、デンマーク、フィンランド（ノルウェーに委任）、フランス、ドイツ、ギリシャ（オーストリアに委任）、香港（台湾に委任）、ハンガリー、イタリア、日本、リトアニア、マケドニア、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス（イタリアに委任）、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国、計35か国。

### FAI関連

- 1) FAIはエアーゲームズツアー（約3日間の日程のミニ・ワールドエアゲームズ（複数の種目（スカイダイビング、バルーン、模型、パラモーター、PGアクロ、PGアキュラシー、ドローンなど）を同時開催するイベント）ともいえるイベントを年に3~4回開催してエアースポーツをプロモートしてゆくプラン）に昨年度で約5000万円を使用し、今年度は約4000万円を予算計上している。全てが順調にいけば2018年後半に最初のイベントを開催する。
- 2) FAIは各種目（模型、バルーン、グライダーなど）が使用できるようなコンペティション・マネージングソフト（いわゆる大会情報、エントリー受付、大会結果など扱う）を開発中で、そのためのウェブサイトをFAIのサーバーの中に用意する。今年の夏にポーランドで開催されるワールドゲームズ（スカイスポーツではパラモーター、キャノピーパイロッティング、グライダーアクロの3種目が参加）で試行し完成させる計画。上手くいけば、CIVL向けのものが作成される予定。
- 3) ブライトリングは今後3年間のメインスポンサーとなり、新しくDHLもスポンサーとなつた（これによりフライト機材の運搬が安く効率良く出来るようになることが期待される）。
- 4) 2017年3月20日香港でFAI Air Sports in Asia Summit（スカイスポーツが目覚ましい発展を遂げているアジアにおいて、さらに大きく発展するように関係者が一堂に会し議論をする会議）が開催される。
- 5) 次回のWAGは2020年、アメリカのアルバカーキかマレーシアで行われる予定。
- 6) 2018年インドネシアで開催されるアジア大会にPGのXCとアキュラシーが競技として参加することが決定。テスト大会は今年の9月に行われる予定。

### 全ての種目共通関連

- 1) カテ1大会の公認料を前のルールに戻すことが承認された。（2016年では大会の参加人数で4レベルに分けて、各レベルに決まった定額を公認料とすることになっていたが、レベルが結果的にまたぐようになった場合に公認料が大きく変化することはオーガナイザーにとって好ましくないとのことで、参加人数に3.2ユーロと競技日数をかけたものとする。）
- 2) これまで、コンプレインの提出時間はローカルルールで決められることになっていたが、それに対する返答の時間は特に決めるようになっていた。そこで、コンプレインに対する時間を原則24時間とすることに決定された。
- 3) カテ2大会において、海外選手の参加申し込み締め切りを、大会開始前60日より早くに設定できないこととなった（これまで15日）。
- 4) カテ2大会がカテ1大会のテスト大会であった場合、参加枠の50%を海外選手に割り当てなければならないことまたオーガナイザー枠として5名分のワイルドカードを設けることが可能となった（これまで通常のカテ2大会のルールにより25%）。また、海外選手のエントリーコードは大会開始90日より早くに設定できない。

### HG&PGXC関連

- 1) S7Aでレストデイの取り方に関して、現在は、競技フライトが6日連続行われた場合にレストデイを取ることとなっている。これまで競技フライトとは何かが問題となることがあった（2015年のコロンビアでのPGXC世界選手権）ので、フライトした日が6日連続した場合レストデイを取ることになった。

トデイを取ることとし、フライトした日の定義（例えば、大会本部からテイクオフまでが近い場合には、テイクオフまで移動し、選手が1人以上テイクオフした場合、あるいはウインドーがオープンした場合はフライトした日とする。また大会本部からテイクオフが遠い場合は、テイクオフまで移動した時点でフライトした日とするなど）をローカルルールに記載することとする。

- 2) ソフトウェアに関しては、結論は出せないので、理事会に一任することが決定。理事会としては、現在使用している GAP と FS を今後どうするかに関して昨年の総会で FLYTEC の Ewald に依頼することにしたが、諸般の事情で断念。現在のものをつぎはぎで対応するのは難しく、全く新規に開発するのは高額となることから See You を利用する方向。2017年の5月から試用して、手を加えて、2018年5月から公式に使えるようなプランを考えている。
- 3) 大会におけるログのダウンロードに関して、オーガナイザーが望めば、ログのダウンロードは直接行い、E メールによるものは受け付けないこととする。またログはタスク結果がオフィシャルになるまで保存しておくこと。
- 4) ブルガリアからの提案（リーディングポイントの新しい考え方（選手の進行方向の半径 Rkm, 角度 A 度以内の円錐に他の選手がいるかどうかでリーディングしているかを判断する））は承認され実際の大会で試行して良ければ、カテ1で使用する方向。進捗状況は理事会が管理する。
- 5) GPS 高度と QNE 高度を記録できるフライトレコーダーのみが得点計算のために認められる。
- 6) 侵入禁止高度の判定にはフライトレコーダーに記録された QNE 高度（必要とあれば得点計算ソフトにより修正された QNH 高度）が主として使用される。QNE 高度に問題があった場合に限り GPS 高度を考慮する。
- 7) タスクトップがペナルティを受け得点がゼロとなった場合は、そのパイロットを ABS と同じ扱いにして得点計算を再計算することとする。タスクトップの次のパイロットが同様に得点がゼロになったら、同様に ABS 扱いにして再計算する（タスクトップがゼロ点にならないまで繰り返す）。これは雲中飛行して、極端に良い結果を出した場合に、スコアリングが大きく異なり他のパイロットに対する影響が無視出来なくなるほど大きくなることが実際に起きたことを是正するため。

## **HG 関連**

- 1) GAP ルール、6. 2 コントロールゾーンの定義で、HG ではターンポイントシリンダーのみであったが、PG と同じターンポイントシリンダー、ES シリンダー、ゴールの半シリンダーとする。それに合わせて 6. 3. 1 も PG と同じ文言とする。
- 2) 12. 1 ESS に到達したがゴールできなかった場合、これまで HG ではスピードポイントを 80% に減額することになっていたがこれを PG に合わせてスピードポイントをゼロとすることとする。
- 3) 2. 5. 11. 1 XC カテ1 大会での大会成立要件の文言を各タスクのトップ選手の得点の合計が 1500 点となったときとなっているのを各タスクのトップが得られる得点の合計が 1500 点となった時とするに変更する。
- 4) 公認大会における WPRS ポイントが現在のところタスクが 2 本成立すれば 80%、3 本成立すれば 100% 与えられるようになっている（成立内容にかかわらず）。これを、単なる本数ではなく獲得可能なタスク得点の合計点が 4000 点になると 100% になるような曲線にする。また、得点計算は GAP を使用し、ノミナルタイムを 1.5 時間以上に設定することとする。
- 5) パイロットあるいはチームリーダーは大会オーガナイザーの役員（競技の結果に影響のある）として働くことは出来ないこととする。
- 6) プッシュルールの改定  
近接する列は同じ「ランチ・ゾーン」に属するものとされ、「プッシュ」があった場合、その列だけでなく、同じ「ランチ・ゾーン」に属する全ての列に適用される。ランチ・ゾーンから離れた場所の列には適用されない。
- 7) 2017 ブラジル世界選手権について、主催者への勧告案：
  - 女子と総合は別のタスクにする。
    - ・ただしコースの方向はおおむね同じにする
    - ・ランチウインドウオープンとスタートゲートの時間を別にする。
  - 飛行禁止空域（エアスペース）について、侵入したら即スコアゼロにはせず、100m の緩衝帯

を設け、徐々に減点されるようにする（提案では、エアースペースの 70m 手前から指數関数的に減点を始め、0m で 10%程度の減点、そこから先 30m 侵入するまでは大幅に減点し、30m 以上の侵入は 0 点）。

- ・上記の数式は FAI スチュワードが作成し、委員会・理事会の承認を得ること。
- ・エアースペースの 100m 以内に近付いた選手は、減点しないがリザルトに名前を載せて警告とする。
- ・ペナルティーの方法はローカルレギュレーションに掲載し、今後の大会でも使えるようする。

#### **PGXC 関連**

- 1) 2019 年 PGXC 世界選手権はマケドニアに決定。
- 2) SAFE PRO PARA は承認された。

#### **PG アキュラシー関連**

- 1) アキュラシーのジャッジングコードが改訂され、イベントジャッジの仕事として、リローンチの決定を下すことを追加し承認された。
- 2) アキュラシー大会において、国別エントリー枠はローカルルールに明記される。国別チームサイズは世界選手権では 7 人（同一性は最大 5 人）とし大陸選手権ではローカルルールに明記されることとする。
- 3) S7B(アクロ)と S7C (アキュラシー) では、参加枠に空きがあった場合に参加選手の決定を大会開始 30 日 (アクロ) あるいは 60 日 (アキュラシー) までに行うとしているが、その期限を切らずに大会開始直前まで可能にするように文言を改訂する（これは主に、オーガナイザーの収入面を考慮した意向）。
- 4) 2019 年 PG アキュラシー世界選手権はセルビアに決定。
- 5) SAFE PRO PARA は承認された。

\* 次回 CIVL 総会はポルトガルのポルトで 2 月の第 1 週末に開催される。

\* HG ディプロマは USA の推薦により Donnita Hall

\* ペペロペスメダルはイギリスからの推薦により Ben Philpott

\* FAI スポーツメダルは理事会の推薦により、2016 年カテ 1 選手権の全主催者および PG ワールドカップ協会に

#### **\* 役員選挙の結果**

会長 : Stephane Malbos (フランス再選)

副会長 : Igor Elzen (スロベニア再選)

Dimikowski Goran (マケドニア再選)

Zeliko Ovuka (セルビア)

Jamie Shelden (アメリカ合衆国)

事務局 : Mitch Shipley (アメリカ合衆国)

会計 : Andy Cowley (イギリス)

HG 委員長 : Jamie Shelden (アメリカ合衆国再選)

PG 委員長 : Adrian Thomas (イギリス再選)

PG アキュラシー委員長 : Riikka Vilkuna (スウェーデン)

PG アクロ委員長 : Claudio Cattaneo (スイス再選)

以上